

強者の戦略

【アヘン戦争から辛亥革命までは4つまたは5つの戦争で理解できる】

雨が降る日が増えてきました。梅雨ですね。洗濯物がなかなか乾きません。湿気が多いと授業前から生徒がみんな疲れてます(笑)。睡眠しっかり取って、暑い夏に備えてくださいね。

研伸館は現在プレサマーフェスタの真っ最中！日曜日は1日限定講座で、大事な夏期に向けて頭を切り換えましょう！ → <http://www.kenshinkan.net/event/Pre-Summer2015/>

6月の末には研伸館の生徒ならば、研伸館センター模試の結果も返却されます。この時期その他の模試を受けた方もいらっしゃるかもしれません。あまり今の段階では判定は気にせず、自分がやるべきことは何か、しっかり分析して次につなげてください。

毎度のことですが、「スパルタン」のURLも貼っておきます。ライブに参加するのももちろん楽しいですが、復習にオンデマンドを一気に見るのもけっこう効果ありますよ。スパルトンのホームページはこちらです。 → <http://spartan.kenshinkan.net>

さて課題にしていた問題を確認しましょう。

問題

東アジアの「帝国」清は、アヘン戦争敗戦の結果、最初の不平等条約である南京条約を結び、以後の60年間にあっても、対外戦争を4回戦い、そのすべてに敗れた。清はこの4回の戦争の講和条約で、領土割譲や賠償金支払いのほか、諸外国への経済的権益の承認や、隣接国家との関係改変を強いられたのである。この4回の戦争の講和条約に規定された諸外国への経済的権益の承認と、清と隣接国家との関係改変、および、その結果、清がどのような状況に陥ったのかを、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

(2015年 京都大学)

《ワンポイントアドバイス》

問われていることを一つ一つ確認したいと思います。

(アヘン戦争以降の)この4回の戦争の講和条約に規定された

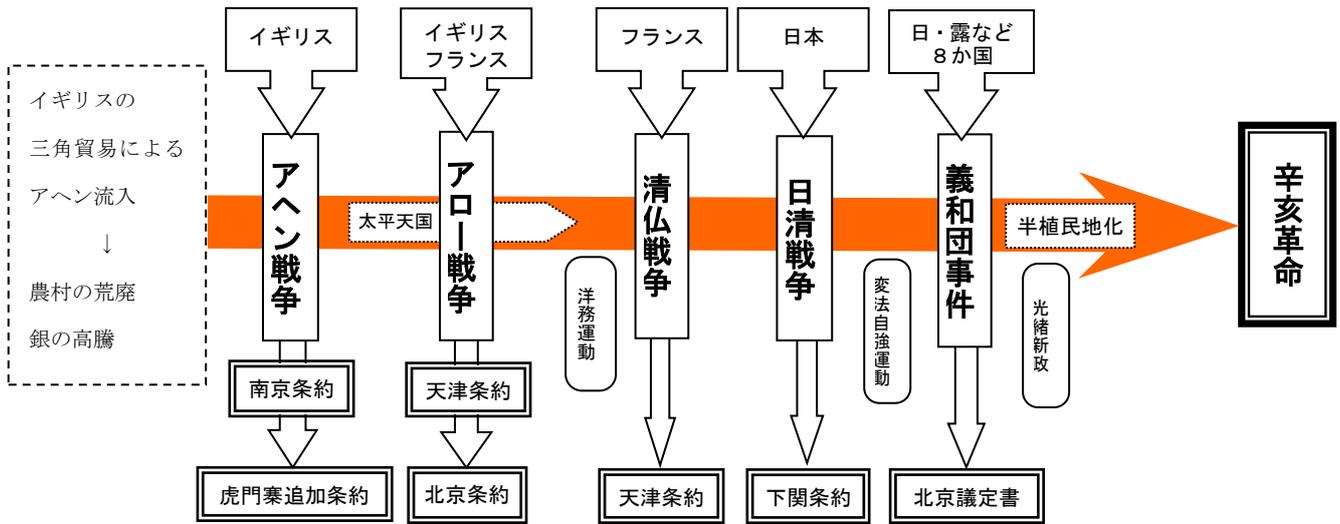
- ・ 諸外国への経済的権益の承認,
- ・ 清と隣接国家との関係改変
- ・ その結果、清がどのような状況に陥ったのか

です。

まずここで一番最初にしなくてはならないことは、「4つの戦争」が何であるかを確認することです。

私が授業で使うプリントにはこういった図がありますので、以下、載せておきます。確認してみましょう。

強者の戦略



これで、一瞬で、アロー戦争、清仏戦争、日清戦争、義和団事件、と分かりますね。

ここまで思い浮かべられたら、ほぼ半分はクリアしたも同然です。

戦争の名をあげて、それぞれの戦争の、諸外国への経済的権益の承認、清と隣接国家との関係改変、その結果清がどのような状況に陥ったのかを書いていきます。「構想メモ」にしてみると

	諸外国への経済的権益の承認/隣接国家との関係改変/どのような状況に陥ったのか
アロー戦争	
清仏戦争	
日清戦争	
義和団事件	

こういった表でまとめることができますと思います。

では各戦争に関して簡単なポイントを書いておきましょう。

- アロー戦争では、一度天津条約を結ぼうとしましたが再び戦闘になり、北京条約を結ぶことになります。それまで中華思想に基づく外交しかしていなかった中国王朝は、開港した港も 11 になり、アヘン戦争以降大きく外交姿勢をかえることになりました。ここで外務官庁である総理衙門ができますね。それまで外国とのやりとりは夷務と呼んでいましたが洋務と呼ばれるようになりました。入試では近代以前の冊封体制や近代以降の対等の条約または不平等条約がよく問われます、気をつけておいてくださいね。アヘン貿易も合法化されました。アヘン貿易が公認されるということは、銀も多く流出します。貧しくなる地域は増えていきました。苦力(クーリー)も合法化されます。中国経済は大ピンチです。北京条約以降外国資本がどっと入ってきます。中国が徐々に西洋に浸食されていきます。

強者の戦略

- ・ 清仏戦争は、ベトナムの宗主権をめぐる争いでした。これに敗北した清はベトナムの宗主権を失います。また、フランスの中国における特権、例えば鉄道敷設や通商における特権などを容認することになりました。中国南部は徐々にフランスの影響下に入っていきます。
- ・ 日清戦争に敗れた清は、今度は朝鮮半島における宗主権を失います。ここでも日本の通商に関する特権を認めます。以後、列強による中国分割が進んでいきます。租借などで中国各地が西洋諸国に持っていかれるんですね。どこをどの国がおさえているか、地図で確認しておきましょう。
- ・ 義和団事件では外国の北京駐兵権が確定し、半植民地化が進んでいくことになります。

どうでしょうか。これで骨組みがある程度できたでしょう。それでは、文章をつくってみてください。添削希望の方は遠慮なくお問い合わせください。

《解答例》

アロー戦争後の北京条約では天津など 11 港が開港され、貿易の自由や長江航行の自由、外国人の内地旅行の自由が承認された。外国製品の流入が増えアヘン貿易も公認されて銀が国外に流出、苦力も合法化された。また総理衙門が設置され中華思想による外交が終わった。清仏戦争後の天津条約では、清朝南部でのフランスの通商や鉄道建設などの特権を承認し、またベトナムの宗主権を放棄しフランスによる保護国化を承認した。日清戦争後の下関条約では日本の通商特権や開港場での企業設立を承認し、朝鮮の宗主権を放棄した。以後日本や列強の経済的侵略と中国分割が進んだ。義和団事件後の北京議定書では、外国の北京駐兵権が承認され半植民地化が進んだ。（300 字）